

新入生の皆さん、徳島大学入学おめでとうございます。

私は、昭和30年（1955年）に大学生になったので、今から48年前のことになります。その頃の私の心境は、受験勉強からやっと解放された安堵感と、テレビも見たことがない福岡の田舎から東京に出てきたもので、いわゆるカルチャーショックとでも申しましようか、何もかもが珍しく、ただ好奇心だけが旺盛で、確たる自分の目的・目標など抱くことなく漫然と新しい学生生活に入ったように思います。そういう自分を振り返った時、私自身の反省と後悔の念をも含めながら、若し私がタイムスリップして皆さんと同じ新入生になったらどうするかという視点で、時代錯誤になるかもしれませんが新入生の皆さんへの提言とさせていただきます。

**専門外の幅広い知識の修得**

高校時代は比較的暗記力を試されがちですが、大学では考える能力を養うものだと思います。しかし、考える前に知識を欠いては考えることもできません。特に大学生生活の前半は、自分の専門外の幅広い知識を修得してゆく必要があります。専門外の知識を得ることにより、自ら考える能力や創造力をも培ってくるものと思いますし、また、その結果として、自然と文章力も身に付いてくるものです。また、いわゆる専門バカに陥ることもなく、昨今欠如し



徳島大学運営諮問会議委員・弁護士 **まつお けい 次**

**「新入生の皆さんへの提言」**

ていると云われる正しい倫理観も構築され、ひいては広い視野に立ち適切な判断をする能力をも得得できるのではないかと思います。

**良き友人を得る**

大学生活で得る大きな成果は良き友人を得ることであり、これが将来大きな財産となるものです。そのためにも、ゼミやクラブ活動に参加し、その中で活動を通じて多くの友人と出会い、また、これらの活動の中で議論し合うことで、自分の意思を的確に発言する能力をも養うことができます。現在、あらゆる分野で自己発言能力、説明義務が問われています。特に医師の世界では、インフォームドコンセントが問題視されていますが、正確に適正に表現する能力も医師の評価のひとつと考えられていることからしても尚更のことだと思えます。

**語学力の養成**

急速にグローバル化の時代が進んでいます。まずこれに対応するためには、語学力の養成であり、それも第一外国語の英語だけでなく、独語・仏語のみならず中国語等の勉強が必要です。どれを選択するかは各自の意思に依りますが、私は、昨今の中国の台頭と私自身がアジアの一員であることから中国語を勉強したいと思えます。

**地域に密着したボランティア活動を**

地域貢献はこれからの大学のキーワードになっているとも云われております。この様な環境下、新入生の皆さんも地域に密着したボランティア活動を行ってみては如何ですか。その様な活動を通して自分の能力に磨きが掛かると同時に、環境問題、人権問題等に関心を持つようになり、人の痛みも理解できる人間に育つてゆくのではないかと思います。

以上の如く、思いつくまま自分がやれなかったこと、やればよかったと後悔していることを中心に考えてみましたが、参考になれば幸いです。

自分の将来の目標を早く定め、軸足を固めてゆけば、有意義な大学生活が送れることと思えますし、社会もその様な学生を求めているものと思えます。皆さん方は21世紀を担って生きてゆく方々ばかりですので、その自覚をもって楽しく有意義な大学生活を送られることを期待しております。

**筆者プロフィール**

福岡県出身

59年 早稲田大学第一法学部卒業

59年 山一証券株式会社入社

64年 同社退社

67年 司法試験合格

68年 司法研修所入所

70年 徳島弁護士会弁護士登録